会テ三冊トシル
中蝶物語
全部八冊
而已也

へ13
1849
1

但馬
伊屋文左衛門
湯島

東京帝国大学
13
1849

一週りかしの代已

[illegible]一日一夜[illegible]見科用[illegible]庵作

[illegible]外琴[illegible]三味線かし物[illegible]

藥[illegible]柳[illegible]

用[illegible]作

但州湯島中屋甚左

宇津の山小葉物語

序

須磨の浦代の糸繰とうたへと繰返ハ
わして関屋の女房も男もとびとも海
顔形ゑ墨しい成たるも人ハ変形も
思ふ事ハ秋ハ縁し世を憑瀾の菊塩を
慰ん言葉めゝ清しとや皆者大滅

船小家。靈寶を摂取。喜怒哀樂。月ゆ
道。味めんと。後バ。無為。執乃法
乃。先。仁義。礼智之偏矯。主。心之。
私の花り。振入。りかも。識。さ。
と。奥ゆしけ。て。尚。の人。実
ぞりけ。女の。ほらも。すと。
礼。こ。物。を。独。友。序

宇津山小蝶物語第一巻目録

子曰。益。懸小串　仁のもとなく。者。拾小。
山業。を。わ。小。毒。のや
思。者。乃。法。師。と。夫。ハ。
繩。と。包。れ。う。塗。足。
挽。金。百。毒。ハ。家。書。の。暁。も
一。で。者。法。第。ハ。仏。見。

繪巻有編笠

小野小町が女業を、絵馬八重の業とハ絵れ事そや
事りしに侍る古業

寄れいく思ひ過うう
後うきハそまふりうう
名さへなりし所ハ裏ぶも
病人立ち一又三の中
金紙ハなげかしの梅ごろ
けふハ我身の上ぶりかハ身揚り

同言葉親音便

三ツ若さ仙母物

東海の若草

花の姿、花よ吸出ハ花ぶも嬢さなりぬ。しを月花ハ
墨ぶ絵ど我絵形ぶ絵ハ絵ぶ晴ぶ晴ぶ
弱ぶ命あり。寛永寛文年中の事ぶ東海の国家が
家の名ぶ中松伊織ぶ者ぶ彼が幼稚名ハ三郎兵衛
ぶ。伝ぶ侍ぶ村連が妻ぶ。十二歳の時
ぶ。濃山妖怪ぶ。ぶ。ぶ。

[illegible]で[illegible]日八[illegible]は[illegible]ものの中[illegible]
歯よりとひとしく[illegible]乃酒の[illegible]戸ゆひつけ[illegible]
[illegible]も袖のうこゝろ[illegible]海[illegible]れうづゝ長く[illegible]
[illegible]下[illegible]海[illegible]乃初の[illegible]やゝ[illegible]とうゝいと[illegible]
おり風俗[illegible]ひまゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

胡蝶物語卷一

胡蝶物語卷一

いとうんと処分金　人キこの方の親へと堂つ取ってこれ
の茅屋ホ立寄ら　かくさん事ごとをすぢ　に行り
いふらしたり　意地悪し　泣つ　ものくそびまへとぎと
くと　形ばかへ　はるくと　ゆすりひ　雷雨念らしてあと
もれさまざりし　実兄弟　年あも　そちぶし
てくるくの一人　猿さそや　男　の源さ　とりとそ
され　こに　ものの　変さい　紙　
ちれ　艶なる　風俗　ちとよ　
ど兵　ホ　わ　
兄人　利　南山　も　疑　怨　
成　年　と　
ぬ　事　人　田　海　田　者

行とそれ　先　西　さ　
て　抑　原　色　に　
の人の　猿　色　
は色　
ふ　中　
ぎ　屋　月　
色を人も　信　
ぬ　背　
師　
ぬ　
ぬ　二十一　
ぬ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

情ふかくもてなしたまふ。葉やれ明くに紛れて帰りたまふ。
忍ぶ恋はいとおもしろく、云方なく思ひ焦がれ、
心寺ふ[illegible]給りたまふ。はまとも父母子共合点あるさ
にもあらぬ乃こゝろ月日ぐるりへ山寺まゐりの三三年
を経たる。番事いとあぢきなく侍りけり。中松ゆめ
ざめて訳もしらぬ物思ふ。くらべゆそ二条帝の恋乃
中にも人の物語の中にも紛れ入作そざれば
古きよりあるはなき人みくらべ見るもすべ兵
々の町人なりにたるくらべ侍りけり。梅山形人も
紛れ仕まつるつくめてはおそぼまざしそ山寺の源業
どや山尾彼法乃こゝろ安はるよ石仕りれい
人みくらべ六年ぶ六年ぶ亭主みるまに梅

より物騒いそ山寺に居やうれ侍りも別世人乃
ふ恩あれば恋よなるいつ。三十年ぶ男みくらべ
物くらべ乃姫ぶれのうぶ山寺に門あらもに
山仁沈まるく文武二道乃人乃とぶりおりひ侍れ
世よる金物なるどもおりき事みくらべ作
まるる風情乃者みぐるのよ侍乃やう物乃姫を
物やさへ乃大名乃見みくらべ山寺乃伴
刺る口にやりんみそれつくれ物ぐし上料紙作ま
いくゆそ侍山の事まで元集作り紙さまの業と
侍そう世そう伴郷乃くまで作るせ世人乃胸
こそぐゆくなりくる梅をいれのものぐりの邪な
とりやせと賜乃さぬこと物ぐるくるし世ぶれあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

げ押山の後所筆[illegible]を[illegible]ハを[illegible]ハ源七[illegible]
ま所なと[illegible]よさゝりつゝ[illegible]なく暴ひりハ三[illegible]白山の
辻みく編笠[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]の[illegible]
くぬ二人[illegible]より矢[illegible]
いゝくつけ[illegible]ゆ[illegible]第陣の時[illegible]得く[illegible]
女所なり尺[illegible]陽[illegible]
つさ[illegible]ゆく[illegible]
厳波[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

いとくれなゐ[illegible]ゆてこそ侍へ[illegible]
事うれそ[illegible]
いとゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]

されども恥しながらきねにおとんのうく、おもく、あそびに
まつきたゆうの差別も弁へまうさぬ若輩の新参なとに
らは褒美とも御たのしなされ神八幡ばかり恐うまへかた
わとは客よその中に嘘くん座でござれどもかと
わくへらわるゝを年月の内にとは月なりく氣に入
附合にもはかりの中とはかりわすれもでにかわいゆうとはゆふ
なかばゆう音まてよ第波をのくざれはいかぞそれんの
ぬまま見へく進ざやしそれよりそのくすぐりと深くなと
いふてるんさ可愛がれとしこがござんせぬわけかゝの
別儀あく一日後りがなけまで無事その物わと数
かうちますぬきさらくらはたゝうともそれと中まへうかた
まことに切まもんの気しこゝろかけはくへ粧様とも様々

[illegible]

[illegible]

[illegible]